

目標達成計画

作成日: 令和 3 年 3 月 13 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	37	有事に備え、地域住民との実践的な取り組みを行うことで、地域住民との協力体制の強化、および具体的な支援体制の取り組みが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の情勢を見ながら、運営推進会議、さくら館季節行事、地域交流等を通してGHさくら館とはどんな方々が暮らされているのか、施設の雰囲気や普段のゲストの様子を見ていただける機会を作る。 ・さくら館の防災訓練等に地域の方々に参加して頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に取り組みながら、少しずつ地域交流を再開していきたい。運営推進会議を利用し、地域の方にさくら館の消火訓練や避難訓練に参加して頂くことを目標として、民生委員や区長さんといった少人数の参加を依頼することから始める。訓練や防災への取り組み内容を報告書にし、地域の回覧板を使って見ていただく。また、避難訓練を行う際にはポスターを作成し回覧板で閲覧して頂く機会を作り、地域住民の方々にも参加や見学をしていただけるような工夫を行う。 	12ヶ月
2	6	虐待や拘束をしないという事を職員1人1人がしっかり意識をもって介助に当たることが大切である。また、何が拘束や虐待に当たるのかを具体的に理解しておく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による拘束がありそれが介護の現場では起こりやすい事を認識する。今以上にゲストへの言葉遣いといった接遇の改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス時の勉強会、ユニットごとの勉強会を行うことで虐待や拘束について勉強する機会を増やす ・言葉遣いや接遇について職員同士で注意しあえる関係作り、職員間のコミュニケーションをしっかりと取れる職場作りに努める 	12ヶ月
3	22	コロナ禍の影響でご家族や、地域社会との交流の場が減少している。馴染みの関係の維持や、再度関係を深めていく事、ご家族としっかりコミュニケーションを取っていくと必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に配慮しながら、ゲストの生きがい支援も含め館外に出る機会を徐々に増やしたり、地域ボランティア受け入れ再開を行っていきたい ・随時、ご家族に情報提供を行いながらさくら館の現状や、ゲストの近況をお伝えする機会を今以上に増やしていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や手紙、電話を使いながらご家族とゲストが面会できない場合でもコミュニケーションを取ることが出来るような取り組みを継続して行う。また、コロナ禍の情勢をみながら、感染症に配慮し地域のボランティアとの交流を再開する。 	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

注) 完成したら市町村及び評価機関に提出して下さい。